

## 『ホップステップジャンプ』

多久市立東原座舎東部校 7年 川原 さくら

私が考える明るい社会とは、みんなが安心してらせる社会です。毎日、不安をいだいて生きている人がいたら、明るい社会ではありません。ここで手をさしのべてくれる人がいたら明るい社会、世の中になると思います。

でも、安心してらせる社会は簡単にはつくれません。

今も世界各地で紛争や核兵器を所持している国があります。少し身近なところに近づいてみると、ニュースでながれている事故や事件。もっと身近なところだと、学校でのいじめや差別。紛争や事件などは私たちには少し大きすぎるかもしれませんが、いじめや差別は、私たちの身の回りにあります。私のクラスでもそういうことがありました。私は、その子に「大丈夫だよ。」と言いました。私は、大丈夫の一言で人は不安な気持ちが軽くなるんだと思いました。その子のお母さんから、「ありがとうね。」という言葉をいただき、勇気を出して言って良かったと心から思いました。

困っている人がいたら勇気を出して声をかけること、これは安心してらせる社会への一歩になると思います。

先日、私は学校のお祭りでボランティアに行きました。私はボールを的に当てるというゲームの担当でした。同じ担当の友達と役割分担をしてバタバタとやっていましたが、やっていくうちに、笑顔が出てきました。小さい子が投げる

のが難しいときは手伝ったりとふれあえることも多かったのです。とても良い機会だったなと思いました。ゲームが終わると盆おどりが始まりました。盆おどりはおじいさん、おばあさんが多かったです。私は輪の中にいる人の表情を見てひかれるように入りました。私が住んでいる市ならではの盆おどりがあるのを初めて知りました。なので、私とまどっていると、後ろからおばあさんが「こうするんだよ。」と言って教えてくれました。少しついていけると「上手だね。」と言ってほめてくれました。私は、普段あまり関わりが少ないおじいさん、おばあさんとも話せてうれしかったなと思いました。こうやって幅広い世代の方々とふれあえて会場にはたくさん笑顔の花が咲いていたと思います。安心してらせる社会にするための二歩目、いろいろなことに挑戦し、いろいろなことを知ることだと思います。私のようにまず、身近な地域のお祭りから挑戦していくといいと思います。そして、私は市の盆おどりの音楽があることと、いろんな人と話せる機会が身近なところにあるということを知りました。

もう一步ふみだしてみましよう。

私の学校には、「あいさつ運動」というものがあります。限られた生徒が校門に立ち、朝登校してくる生徒とあいさつをします。「おはようございます。」という元気よく返してくれる人もいます。でも、中には下を向いてあいさつを返してくれない人もいます。あいさつを返してくれなかったときは、悲しいです。なんであいさつしなかったんだろう、なにかあったのかなと思います。ここで、あいさつしなかったから、この人はだめだと決めつけるのはまだ早いです。あいさつができなかった理由があるはずです。判断する前に声をかけてみてください。できない理由を人に話せば、少しは楽になると思います。そして次からは元気に

あいさつができると思います。

三歩目は、気持ちの良いあいさつをすることと、できない人がいたら理由を解決することです。

ここまでで、三歩進みました。私たちの身近なところで、三歩進めるということ  
です。

一歩目は、勇気を出すこと。これは少し難しいかもしれませんが。でもこのたった一人が勇気を出せば一歩近づくことができます。これを十人の人がやると十歩も近づくことができます。だからといって、人任せはだめです。みんながしないと意味がありません。みんなでつくって社会ですから、誰一人かけることはないです。二歩目は、いろいろなことに挑戦し、知るでした。これも勇気が必要かも知れません。そのときは、一歩目のことを思い出してください。私は挑戦してみても損はないと思います。逆に知るという得がついてくると思います。

三歩目は、気持ちの良いあいさつをすること。これは、コミュニケーションとして、一番大事なことだと思います。あいさつはどこへ行ってもすることなので、とても大事だと思います。

一歩目のホップ、二歩目のステップ、最後三歩目のジャンプ。このホップステップジャンプで、この社会を安心してくらせる明るい社会にできたらいいなと思います。そのためには一人一人の行動が大事です。ジャンプした後、進んでいけるのか、それは自分にかかっているので、みんなで明るい社会をつくりましょう。